

当面の維持管理の試行

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

1. 当面の維持管理の試行に関する第9回委員会の意見

- 第9回の委員会で、当面の維持管理の試行に関して下記の意見が提出されました。
- 協議の結果、上池の旧流路整備地およびモトクロス場跡地A整備地周辺でハリエンジュほかの外来種の樹木の伐採を行うこととなりました。
- 維持管理・環境管理専門委員会だけでなく、協議会委員および外部（イベント参加者等）に参加を呼びかけて行うこととなりました。

- 上池ではセイバンモロコシとクズ、菜の花類をなんとかしたい。中池ではツタ類が木に絡んで倒れて危険なので、これを駆除したい。
 - まずは「当面の試行」として協議会の委員中心で出来ることを考える必要がある。
 - ボランティアが喜んでやってくれるのは「木を伐る」ことである。これまでの経験ではけが人なども出ていないので、可能だと思われる。
 - 中池でクワ、シンジュ、ツタ、タケなどグループごとに実施してはどうか。
 - 最初から大がかりにすると大変であるし、まず1回目はうまく行くようにしたいので、資料の案にある上池のシンジュまたはハリエンジュの場所を基本として、意見に出たような要素を加味して企画してはどうか。
 - 10月24日のイベント参加者に参加を呼びかけてみてはどうか。
 - 協議会委員とイベント参加者等へ呼びかけ、上池でシンジュまたはハリエンジュ等の「木を伐る」維持管理を試行する。企画案は事務局で検討し、次回の委員会で協議する。

1. 当面の維持管理の試行に関する第9回委員会の意見

【参考：第9回委員会提示の「当面の維持管理の対象候補」事務局原案】

| 地区・管理対象 | | 必要な維持管理 | 協議会での対応検討 | 試行候補 | |
|---------|---------------------------|--------------------|---|---|-------------|
| 上池 | 上池 旧流路 整備地 | 呑み口 | 出水後のゴミ除去 | ゴミの量が多く、人力だけでは運べない | × |
| | | 導水路 | 通路沿い20m両側の草刈り (見学者の案内用) | 範囲が狭く、草本主体であり、貴重種が混ざっている可能性も無いことから、専門家ではなくても対応は可能である。 ただし、今年度は生育盛期を過ぎるため、実効性がやや低くなる。 | △ (次年度○) |
| | | 整備地 | オオカワチシャ対策 | 作業性が悪い湿潤地に広範囲に点在しているほか、見分けがしやすい開花期は晩春・初夏のため今年度の作業は困難である。 | × |
| | 上池 モトクロス 場跡地 整備地 | 通路 | 管理用通路の除草 | 範囲が狭く、草本主体であり、貴重種が混ざっている可能性も無いことから、専門家ではなくても対応は可能である。 ただし、今年度は生育盛期を過ぎるため、実効性がやや低くなる。 | △ (次年度○) |
| | | 整備地 | オオカワチシャ対策 | 作業性が悪い湿潤地に広範囲に点在しているほか、見分けがしやすい開花期は晩春・初夏のため今年度の作業は困難である。 | × |
| | | | 通路周辺および法面のオオブタクサ、アレチウリ、セイタカアワダチソウ、シンジュ、ハリエンジュ、つる性植物(カナムグラ・クズ)対策 | 範囲が狭く、貴重種が混ざっている可能性も無いことから、専門家ではなくても対応は可能である。 ただし、草本類は今年度は生育盛期を過ぎるため、実効性がやや低くなる。 幼木は秋季以降に確認しやすく、伐採すれば次年度の成長を抑制する効果大きい。 なお、ハリエンジュの成木の伐採は協議会での対応は困難である。 | ○ |
| 中池 | 中池 河畔林 | 保全エリア | シンジュおよびつる性植物対策 | シンジュは成木が多く、つる性草本は分布が広範囲であるなど、実態が不明確で作業性が悪いことから、現時点での協議会での対応は困難である。 | △ |
| 下池 | 下池 ハンノキ 移植地 | 実施計画範囲 | 移植したハンノキ周辺の大型外来草本やつる性植物対策 | 移植したハンノキ周辺の草刈りは協議会で対応可能であるが、ハンノキが十分成長したため、管理の必要性は低くなっている。 | △ |
| 地区全体 | | 整備地以外の植生管理(樹木伐採等)等 | アライグマ対策 | 実態が不明確のためモニタリング中であるほか、すぐの対策実施は困難である。 | × |

※専門家：生物に関する知識を有し、維持管理に取り組んで来られた方。

2. 当面の維持管理の試行（案）

旧流路整備地
および
モトクロス場跡地A整備地
周辺の
ハリエンジュ・トウグワ

※オレンジの点線は維持
管理試行の内容

- ◆現存するハリエンジュの大木周辺に幼木が増加しつつあり、放置しておくとハリエンジュが広がる可能性があります。
- ◆導水路・整備地周辺にトウグワが増加しており、放置しておくとさらに増加・樹林化する可能性があります。

- ◆ハリエンジュ・トウグワの増加を防ぐために、幼木の伐採を実施します。
 - ◆繁茂面積は数十m四方程度で、**幼木は小型ののこぎりでの伐採が十分可能であるため、これを実施**します。
 - ◆刈り取ったハリエンジュ・トウグワは現場に放置してもそこからの再繁茂はないため、運搬・処分は必要ありません。
 - ◆周辺の草本が枯死して作業性が良くなる**11月頃に実施**します。
- ※大木の伐採は困難であるため、存置します。

①通路延長約200m、
幅4mの除草

- ◆次年度、**生育初期**（周辺に草本が密生する前の6月頃）に、**再度同様の伐採**を行います。
- ◆次年度、**今回と同じ時期**に状況を確認し、幼木が認められたら、**再度同様の伐採**をします。
- ◆これを繰り返すことでハリエンジュ・トウグワの生育が抑制できるか、確認します。

④アクセス路と周辺の除草
（延長100m、幅1m）

モトクロス場跡地
整備地A（H23）

モトクロス場跡地
整備地A（H25）

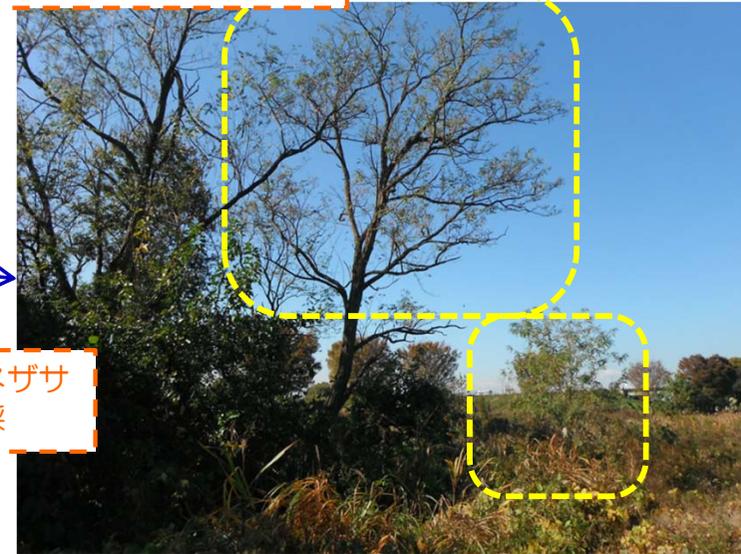
旧流路整備地

②トウグワの伐採

③トウグワ・ハリ
エンジュの伐採

⑤アズマネザサ
の伐採

旧流路整備地の
H26の植生図（夏～秋作成）



ハリエンジュの大木と幼木が生育して
います。（H26.11.13撮影）

非公開

2. 当面の維持管理の試行（案）

H23整備地

⑥アクセス路と周辺の除草

⑦ハリエンジュの
伐採

非公開

H25整備地

モトクロス場跡地A整備地の
H26の植生図（夏～秋作成）

2. 当面の維持管理の試行（案）

【必要な時間と人数の試算】

① 通路の除草

- 通路延長約200m、幅4m、800m²の除草
- 刈払機1台で3時間×2人（1時間あたり300m²で試算）
- 6時間/人

② トウグワの伐採、③ トウグワ・ハリエンジュの伐採

- 周辺1mの草刈り：2人で1時間
- 幼木の伐採・枝払い・切断・片づけ：2人で1時間
- 合計4時間/本/人

④ アクセス路の除草

- 延長100mで幅1mで100m²の除草
- 刈払機1台で1時間×2人
- 2時間/人

⑤ アズマネザサの伐採

- 周辺1mの草刈り：2人で1時間
- アズマネザサの伐採：2人で2時間
- 合計6時間/人

⑥ アクセス用の通路の除草

- 合計1時間

⑦ ハリエンジュの伐採

- 周辺1mの草刈り：2人で1時間
- 幼木の伐採・枝払い・切断・片づけ：2人で1時間
- 合計4時間

【全体の時間】

- ① 6時間
 - ② 4時間×4本＝16時間（本数は要現地確認）
 - ③ 4時間×4本＝16時間（本数は要現地確認）
 - ④ 2時間
 - ⑤ 6時間
 - ⑥ 1時間
 - ⑦ 4時間×4本＝16時間（本数は要現地確認）
- 合計 63時間

【必要人数】

- 10:00～12:00までの2時間の作業を想定
- 63時間÷2時間＝31.5人

参考：刈払機の除草時間

1) 研究課題名及び研究期間 高齢者人材資源が農業に参入できる要件の解明と高齢者向け作業指標の作成 平成17年～19年

2) 参考データ

表1 草丈・機種別の作業能率

| | 草丈40cm | | 草丈30～40cm | | 草丈30cm以下 | |
|-------------------------|--------|-----|-----------|-----|----------|-----|
| | 試験機 | 対照機 | 試験機 | 対照機 | 試験機 | 対照機 |
| 作業時間(分) | 33 | 27 | 14 | 12 | 12 | 12 |
| 作業面積(m ²) | 310 | 156 | 158 | 100 | 162 | 162 |
| 作業能率(m ² /h) | 564 | 347 | 677 | 500 | 810 | 810 |
| 試験機/対照機作業能率比(%) | 163 | | 135 | | 100 | |
| 試験日 | 9月4日 | | 9月21日 | | 9月6日 | |

300m²/hrを設定

注1) 試験機は肩掛け式スロットル制御装置付刈払機(排気量21cc)で、対照機は通常の肩掛け式刈払機(排気量23cc)である。
注2) 被験者は、40代男性1名である。

※単独作業とはしないで、最低2人1組で作業を実施

出典：宮城県農業・園芸研究所